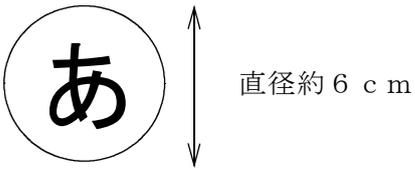
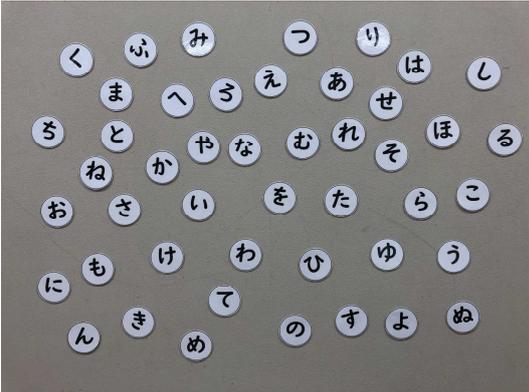


自作教具の活用事例

<p>【作品名】</p> <p>ひらがなタッチ</p>	<p>【学校名】</p> <p>日立市立坂本小学校</p>
<p>【活用できる領域・教科等】</p> <p>自立活動</p>	<p>【制作者名】</p> <p>宇野 美由紀</p>
<p>【制作の意図】</p> <p>跳躍性眼球運動や眼と体のチームワークを体を動かしながらトレーニングしつつ、言葉集めなどをすることができる。</p>	<p>【使用の方法】</p> <p>1人で行う。場合によっては、2、3人で協力して行うことも可。㊦から順にタッチしていく。秒数を決めて何文字タッチできるか実施したり、逆に何秒ですべてタッチできるか記録をとったりする。単語を作る方法もある。</p>
<p>【制作上の工夫】</p> <p>1文字 1文字カードにして黒板などに貼り付けることで、実態に合わせて文字数を増減し難易度を変えることができる。また、ひらがななので、五十音順にタッチしたり、言葉集めをしたりと応用ができる。</p>	<p>【見取り図】</p> 
<p>【写真】</p> 	<p>【使用効果と応用発展】</p> <p>板書を写すのが速くなったり、体を動かすのが上手になったりする。</p> <p>目標を決め自分の記録に挑戦し達成感を味わったり、友達と競争する事でゲームの勝ち負けを経験したりすることができる。</p> <p>タッチではなく、作った単語を取って別のホワイトボードに貼っていくようにすると、使える文字数が減っていくのでさらに難易度が上がる。逆に50音順の場合は易しくなる。</p>
<p>【材料・材質・部品等】</p> <p>コピー用紙 ラミネート マグネット</p>	<p>拗音や促音のカードを作ること、さらに多くの言葉を作ることもできる。</p>